官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス
前二項ノ規定ハ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲズ

失業對策委員會官制の公布

現下の失業問題に對する綜合的對策を急速に確立し、且つ之を實行するため、之が審議機關として政府は失業對策委員會設置を準備中の所、其の成案を得たので昭和二十年十二月三日勅令第六百九十七號を以て其の官制を左の如く公布した。

失業對策委員會官制（昭和二十年十二月三日勅令第六百九十七號）

第一條　失業對策委員會ハ中央失業對策委員會及都道府縣失業對策委員會トス
中央失業對策委員會ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ監督ニ屬ス
中央失業對策委員會ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ハ地方長官ノ諮問ニ應ジ失業對策ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
失業對策委員會ハ前項ノ外關係行政廳ノ諮問ニ應ジ失業對策ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
失業對策委員會ハ失業對策ニ關スル重要事項ニ付關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二條　中央失業對策委員會ハ厚生省ニ之ヲ置ク
都道府縣失業對策委員會ハ都道府縣（沖繩縣ヲ除ク）毎ニ之ヲ置キ都道府縣ノ名ヲ冠ス

第三條　失業對策委員會ハ會長及委員ヲ以テ組織ス

第四條　中央失業對策委員會ノ會長ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ノ會長ハ地方長官之ヲ命ジ又ハ地方長官自ラ會長ト爲ル

第五條　中央失業對策委員會ノ委員ハ三十八人以内トシ都道府縣失業對策委員會ノ委員ハ二十人以内トス
前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第六條　委員及臨時委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ中央失業對策委員會ニ在リテハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ニ在リテハ地方長官之ヲ命ズ

第七條　委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第八條　會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員會長ノ職務ヲ代理ス

第九條　失業對策委員會ニ幹事ヲ置ク
中央失業對策委員會ノ幹事ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ノ幹事ハ地方長官之ヲ命ズ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　失業對策委員會ニ書記ヲ置ク
中央失業對策委員會ノ書記ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ノ書記ハ地方長官之ヲ命ズ
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
職業紹介委員會官制中左ノ通改正ス
第一條第四項ヲ削ル
第五條第一項中「四十八人」ヲ「二十八人」ニ改ム
第六條第二項中「厚生大臣」ヲ「地方長官」ニ改ム

生活困窮者の緊急生活援護

終戰後の社會情勢の急變に伴ひ、國民中生活困難に陷る者が益々增加し、之が至急援護の必要が認められたので、政府は昭和二十年十二月十五日生活困窮者緊急生活援護要綱を左の如く決定した。右に付き厚生省當局は各地方の實情に卽し、速急具體的計畫を樹立せしむるため十二月十九日附を以て各地方長官宛別記の通牒を發した。

生活困窮者緊急生活援護要綱（二〇・一二・一五　閣議決定）

終戰後ノ國内現狀ニ鑑ミ特ニ生活ニ困窮セル者ニ對シ左記要領ニ依リ緊急生活援護ノ方途ヲ講ジ以テ當面セル生活困窮ノ狀態ヲ匡救セントス

記

一、生活援護ノ對象ト爲スベキ者ハ一般國内生活困窮者及左ニ揭グル者ニシテ著シク生活ニ困窮セルモノトス
1、失業者
2、戰災者
3、海外引揚者
4、在外者留守家族
5、傷痍軍人及其ノ家族並ニ軍人ノ遺族
二、生活援護ハ援護ヲ要スル者ノ世帶ノ實情ニ應ジ左ノ方法ニ依ルモノトス

1、宿泊施設、給食施設及救療施設ノ擴充
2、衣料、寢具、其ノ他生活必需品ノ給與
3、食料品ノ補給
4、生業ノ指導斡旋
5　自家用消費物資ノ生産資材ノ給與又ハ貸與

三、生活援護ノ實施ハ都道府縣ノ計畫ニ基キ市區町村長ヲシテ當ラシメ町内會長、部落會長、方面委員、社會事業團體等ヲシテ之ニ協力セシムルモノトス

四、生活援護ニ要スル經費
既定經費ヲ本要綱ノ趣旨ニ則シ運用スルノ外尚必要經費ハ此ノ際特ニ別途考慮スルモノトス

（備考）

(一) 本要綱ノ實施ニ當リテハ取敢ヘズ都市特ニ六大都市並ニ引揚者ノ多數滯留地ニ重點ヲ置クモノトス

(二) 本要綱ノ實施ニ當リテハ其ノ徹底ヲ期スル爲特ニ全國方面委員ヲ積極的ニ活動セシムルモノトス

記

一、本件實施ノ趣旨ノ要援護者ノ當面セル生活困窮狀態ヲ匡救シ生業ノ成リ立チ得ル樣之ガ援護輔導ヲ爲サントスルモノナルモ本事業ノ實施ヲ契機トシテ更ニ一段ト國民相互間ニ於ケル共濟ノ自主的氣運ヲ釀生セシムル樣特段ノ考慮ヲ爲スコト

二、生活援護ハ宿舍ノ提供、救療ノ實施、給食施設等ノ擴充、衣料、寢具其ノ他生活必需物資ノ現物給與ニ重點ヲ置キ單ニ金錢給與ニ墮スルガ如キコトナク世帶ノ實情ニ應ジ直ニ困窮ノ實體ニ卽應シテ之ヲ爲スコト

三、生活援護ノ方法ハ各地方ノ實情ニ應ジ夫々適切ナル方途ヲ講ズベキモノナルモ左ノ諸點ニ付テハ特ニ留意セラレタキコト

(イ) 宿泊施設ニ付テハ無料又ハ輕費ノ宿泊所ノ設置擴充ヲ圖ルコト

(ロ) 給食施設ニ付テハ外食者ニ對スル外食者食堂ニ於ケル無料又ハ輕費ノ給食、學童ニ對スル特別給食、集團地域又ハ授産場若ハ共同作業場等ノ職場ニ於ケル共同炊事ノ實施ヲ圖ルコト

(ハ) 救療施設ニ付テハ診療券（助産券ヲ含ム）ノ發行、巡回診療等ヲ爲スノ外家庭救急藥ノ配付等ヲ爲スコト

(ニ) 衣料、寢具、厨房用品、履物類等ノ生活必需物資ニ付テハ關係地域毎ノ供出買上ヲ實施スル外退藏物資ノ買上ニ努メ無料又ハ輕費ヲ以テ之ヲ配布スルコト

(ホ) 食料品ノ補給ニ付テハ特別ノ措置ヲ講ジ代替食、乳製品及鮮魚、野菜類等ノ副食物ヲ最底生活ヲ維持スルニ必要ナル熱量ヲ目途トシテ現物配給ニ努ムルコト
尚右ノ配給ハ家庭配給ノ外就勞奬勵上、出先職場ヲ通シ之ヲ行フ等ノ方法ニ據ルコト

(ヘ) 生業ノ指導斡旋ニ付テハ授産場ノ利用又ハ設置ヲ爲スノ外必要資材ヲ配給スル等ノ方法ニ依リ家庭授産ノ普及ヲ圖ルト共ニ生業器具ノ給貸與、就業支度金ノ支給等ニヨリ極力就業ノ斡旋ニ努ムルコト

(ト) 自家用消費物資ノ生産資材ノ給與又ハ貸與ニ就テハ都市戰災跡地等ニ於ケル自家菜園用ノ種子ノ給與、農具ノ給貸與等ヲ爲スコト

四、要援護者ノ認定ニ付テハ町内會長、部落會長等ノ協力ノ下方面委員ヲシテ活潑適正ナル調査ヲ行ハシメタル上方面委員會ニ諮リ市町村長之ヲ爲スコト
尚方面委員會ニハ町内會長、部落會長、社會事業團體代表者其ノ他適當ナル關係者ヲ廣ク參加セシメ之ガ認定ノ適正ヲ期スルコト

五、本事業實施ニ當リテハ方面委員、社會事業關係者ノ充全ナル活動ヲ期スルハ勿論ナルモ一段ト援護ノ徹底ヲ期スル爲教育者、宗教家、醫師、保健婦等ノ關係者ノ外男女青年團及婦人團體等ノ關係者ヲシテ積極的ニ協力セシムルコト

六、生活援護ニ當リテハ要援護者ヲシテ卑屈ナル感ヲ懷カシメザル樣其ノ取扱ニ格別ノ留意ヲ爲スト共ニ苟モ援護ニ怙レシムルコトナク勤勞ヲ通ジ速ニ自立ノ生活ヲ營マシムル樣之ガ積極的指導ニ努ムルコト

七、本事業ノ實施ト併行シテ戰災保護法、救護法、軍事扶助法其ノ他ノ扶助並ニ救護關係法規ニ依ル法的援護ノ徹底ヲ圖ルハ勿論此ノ際特ニ公共團體、公益團體其ノ他ニ依ル任意救濟ヲ一段ト擴充セシムルト共ニ社會事業團體等ニ依リ現ニ計畫ヲ進メラレツヽアル歲末救濟事業其ノ他ノ救濟運動ヲ一層積極的ニ實施セシムルコト

八、本事業ニ關スル實施計畫ヲ樹立シタルトキハ速ニ當省ニ報告スルコト

九、本事業ノ實施ニ要スル經費ニ付テハ左ノ金額ヲ恩賜財團戰災援護會ヲ通ジテ之ヲ配付スル豫定ナルモ經理ノ方法其ノ他ニ關シテハ別途通牒スベキコト